

31 年振りに発見された 三浦半島産タキシダ

山本 薫*・岩浪 創**

Rediscovery of *Antrophyum obovatum* from Miura Peninsula after 31 years

YAMAMOTO Kaoru* and IWANAMI Tsukuru**

キーワード：再発見，タキシダ，分布，三浦半島
Key words: Rediscovery, *Antrophyum obovatum*,
distribution, Miura Peninsula

タキシダ *Antrophyum obovatum* (イノモトソウ科) は，本州(富山県，千葉県以西)，四国，九州；中国，台湾，インドシナ半島，南アジアに分布する単葉のシダ植物である。谷沿いの陰湿な岩場に生育し，神奈川県内では湯河原町奥湯河原(1958年，1964年，1973年)と葉山町森戸川(1988年)，小田原市(2004年)，山北町(2006年)に記録がある(神奈川県植物誌調査会，2018)。本種は分布が限定的でかつ個体数も少ないため，神奈川県のレッドリストでは絶滅危惧ⅠA類となっている(高桑ほか，2006)。前述の森戸川は三浦半島唯一の産地であり，岩上で一株が見出されたのみであった。その後，少なくとも2001年には岩の崩落によって消滅したとされていた(神奈川県植物誌調査会，2001)。

著者らは，2019年2月に森戸川において31年振りにタキシダ(第1図)を確認したため報告する。
標本：逗子市桜山飛地(森戸川)，標高48m，20190211，岩浪創，YCM-V068924

根茎は短く斜上し，根茎をおおう鱗片は暗褐色で披針形，長さ5～7mm。葉の大きさは環境がよければ長さ20cm前後に成長するが，分布の北限に近い本個体は長さ3～7cmで葉柄も短い。

森戸川は逗子市と葉山町にかかって流れ，発見された地点は逗子市に区分される。現地では川沿いの北側斜面に100株以上の生育を確認することができ

たものの，個体や生育環境の保全については今後検討する必要がある。

本種の発見と確認にご協力いただいた矢崎英盛氏，岡宮久規氏，水上真知子氏，山室静子氏ならびに標本の作成にご協力いただいた中山博子氏，金子龍次氏に感謝申し上げる。

引用文献

神奈川県植物誌調査会 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582 ページ. 神奈川県植物誌調査会，小田原.
神奈川県植物誌調査会編 2018. 神奈川県植物誌 2018 電子版. 1803 ページ. 神奈川県植物誌調査会，小田原.
高桑正敏・勝山輝男・木場英明編 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 ページ. 神奈川県生命の星地球博物館，小田原.



第1図 タキシダ生写真.

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

** 首都大学東京大学院理工学研究科 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

原稿受付 2019年11月1日 横須賀市博物館業績 第749号

